

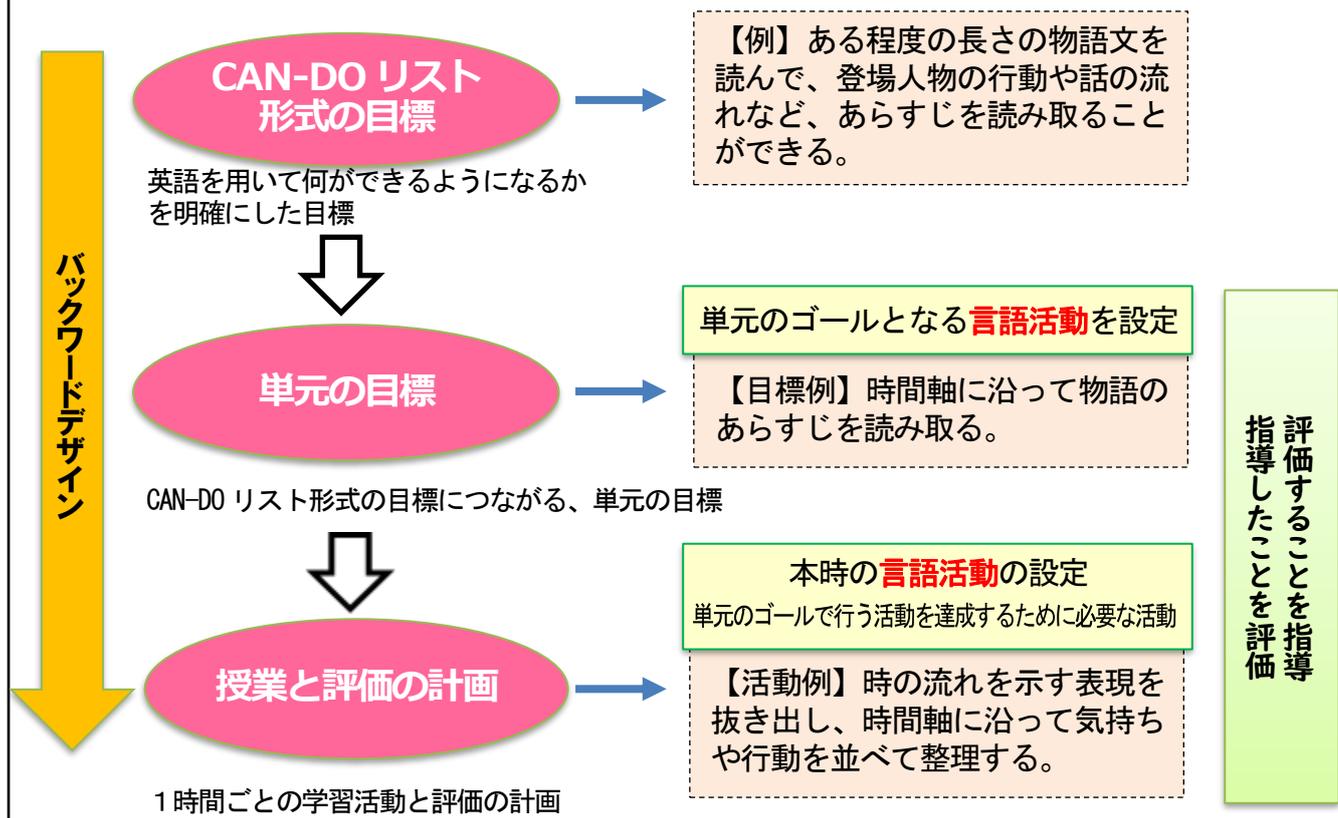


確かな学力の向上をめざして【6月】

■CAN-DO リストを活用した授業づくり

英語の授業づくりでは、子どもたちが英語を使って何ができるようになるかを明確にし、その目標達成に向けた授業構成をすることが大切です。各学校で行われている学習活動を「言語を用いて何ができるようになるか」という視点で見直し、CAN-DO リスト形式の目標を単元ごとの指導と評価の計画に反映させることが必要です。

【中学校の例】



CAN-DO リスト形式の目標と単元の目標、授業の目標が相互に関連したものになることを意識しよう。

- ★授業で行う学習活動が、ゴールとなる**ねらい**を達成するための活動になっているか確認しましょう。
- ★指導の過程で、子どもたちの**達成状況**を丁寧にとりながら**指導**を見直していきましょう。

Point

- 単元のゴールを明確にして、1時間1時間の授業を考える
- 評価しようとする事（すべきこと）を指導する
- 指導したことを評価し、授業改善につなげる

左のようなことは、どの教科でも大事にしたいポイントだね。



※「確かな学力」バックナンバーで、外国語科における言語活動の充実に向けた授業改善のポイントをまとめておりますので、ご活用ください。

「言語活動を通して資質・能力を育成する」(R3年度 12月号) ⇒

